

## フォノイコライザー特性の調査

### 1. はじめに

各種フォノイコライザーの特性の現状を調査し、これまでの対応についても整理する。

### 2. 各種フォノイコライザーの特性調査

#### 1) Accuphase C27・C37・C47

EQ カーブ：RIAA

位相反転：有、バランスアウトのデフォルトは位相反転

その他：アンバランスアウトは位相反転なし

プリアンプ C-2300 には 4 バンドトーンコントロールあり

(低域 40Hz/125Hz、中低域 500Hz、中高域 2kHz、

高域 8kHz/20kHz)

#### 2) Lux E-04

EQ カーブ：RIAA

位相反転：有

その他：プリアンプ C-10X にトーンコントロールとラウドネスあり

#### 3) Phasemation EA-1200

EQ カーブ：STEREO 用 RIAA、モノラル用 Mono1 (DECCA レーベル等)、

Mono2 (Columbia レーベル)

位相反転：無

#### 4) Soulnote E-2

EQ カーブ：旧タイプ EQ カーブ各種

位相反転：有、デフォルトは位相反転なし

その他：1970 年代までは RIAA 以外のカーブの録音があり

その場合は逆相が多いとの記述あり

E-3 は RIAA のみで位相反転有

#### 5) ESOTERIC Grandioso E1

EQ カーブ：RIAA、Columbia、DECCA、NAB、TELDEC、AES

位相反転：無

#### 6) Ortofon EQA-2000

EQ カーブ：RIAA

位相反転：無

7) Solution 757

EQ カーブ : RIAA, DECCA, Columbia, London, TELDEC, NARTB

位相反転 : 無

8) ZANDEN Model 120

EQ カーブ : RIAA、DECCA、Columbia、TELDEC、EMI

位相反転 : 有、デフォルトは位相反転なし

その他 : Cutting Head 対応の第 4 時定数 High・Mid・Low の選択可

製品購入者にレーベルの EQ 特性リスト提供

プリアンプ Model 3100 に位相反転あり

9) 47 研 4718

EQ カーブ : RIAA

位相反転 : 無

10) Brooklyn DAC+ (フォノ入力付 DAC プリ)

EQ カーブ : RIAA

位相反転 : 無

その他 : トーンコントロールなし

11) しなの音蔵オリジナルプリアンプ (フォノ入力付プリ)

EQ カーブ : RIAA

位相反転 : 無

その他 : トーンコントロールなし

12) Leak Point 1 プリアンプ (フォノ入力付プリ)

EQ カーブ : RIAA

位相反転 : 無

その他 : トーンコントロール有

3. まとめ

- ・欧州および欧州輸出メーカーは多種のイコライザーカーブに対応している。
- ・Phasemation はモノ用イコライザーカーブに対応している。
- ・位相反転機能を有するフォノイコライザーやプリアンプは多い。
- ・Accuphase は位相反転がデフォルトであることが特徴であり、Soulnote は古い収録レーベルの位相に言及している。
- ・ZANDEN は第 4 時定数対応機能を追加している。

4. イコライザー特性への対応経過

- ・イコライザーカーブの知識のない頃は、レーベル毎にプリアンプのトーンコントロールの調整やチャンネルデバイダーやネットワークのレベル合わせを実施していた。

- その後、RIAA 以外に DECCA カーブと Columbia カーブがあることを知り、iFi の iPhono を導入した。
- 2019 年の吉田苑の試聴会で ZANDEN のフォノイコライザーを知り、5 種のイコライザーカーブ対応と位相反転機能の有用性を認識し、他機種との試聴の上、導入後各種レーベル毎のイコライザーカーブを調査してきた。
- その後も MC 入力、MM 入力およびライン入力もある DAC プリの Brooklyn DAC+ の位相反転機能の活用や、バランス入力では位相反転機能を有する FIDERIX の TruPhase も導入し、アナログ以外のデジタル再生においても位相反転機能を活用してきた。
- ずっと以前に実施していたプリアンプのトーンコントロール調整を疑似的なイコライジングに利用できないかということで Leak Point 1 のトーンコントロール機能により検討を行い、一定程度疑似的なイコライジングが可能なことを明らかにし、さらに Brooklyn DAC+ の位相反転機能との併用も有用であることが分った。
- 以上の経過により、以前実施していたプリアンプのトーンコントロール調整が部屋の音響特性やスピーカーやアンプの特性の補償以外に、イコライザーカーブの問題への対応でもあったことが理解できた。

以上